



GUNBOH

# 群 萌

第185号 2016年1月12日

発行所 全国化学労働組合総連合

〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-10

本郷TKビル1F

TEL 03 (3868) 9663

FAX 03 (3868) 9664

発行責任者 長野 慎哉

編集者 化学総連事務局

gs03@kagaku-s.jtuc-rengo.jp

## 化学総連として大きな一歩を踏み出そう ~真にプロフェッショナルな、 選ばれ続ける産別組織を目指して~



全国化学労働組合総連合 会長 長野 慎哉

新年明けましておめでとうございます。日頃より、化学総連の諸活動に対しまして力強いご支援とご協力を賜り、誠にありがとうございます。また、連続プラントの運転等で年末年始も業務に当たられました皆様方には、あらためて感謝と敬意を申し上げます。

昨年、戦後70年を迎え世界中であらためて平和の尊さを感じ、願う中で、イスラム過激派組織による各国でのテロや、日本人を含む人質への残忍な行為が続き、各国による報復的攻撃、難民の急増に繋がるなど、国際平和に大きな課題を残す1年となりました。また、企業や研究機関における不祥事が次々と明るみになり、社会的に厳しい制裁を受けることとなりました。健全な事業運営、当たり前のことですが、そのことが如何に重要かを再認識すると同時に、問題が小さいうちに発見し芽を摘んでいく、化学総連の安全アンケートでも現場の安全にコミュニケーションが大きく寄与していることが見えていますが、そういった風通しの良い職場を如何に作っていくか、我々の現場でも教訓にしていくべきと感じたところです。一方、明るい出来事もたくさんありました。日本の技術や人財を世界に発信するという意味では、国産小型ジェット旅客機MRJが初の試験飛行を成功させたことや、宇宙ステーション補給機「こうのとり」5号の打ち上げに成功し、国際宇宙ステーションへの様々な物資供給を果たしたことに加え、日本人宇宙飛行士の活躍に大変勇気付けられました。そして年末には、お二人の日本人研究者が、ノーベル物理学賞、生理学・医学賞を受賞され、あらためて日本の科学技術力が世界に認められることとなりました。ノーベル賞は、ダイナマイトの発明者であるアルフレッド・ノーベルの遺言に従って1901年から始まった世界的な賞ですが、今年はそのダイナマイトが発明されて150年になります。当時、鉱物資源の採掘や兵力の強化を目的に、多くの研究者が新しい火薬の開発に取り組み、1846年にイタリアの化学者ソブレノがニトログリセリンを作り出しました。ニトログリセリン自体は非常に安定性が悪く、火薬として安全に取り扱うことが困難でしたが、これを珪藻土に吸収させることで安定化させ、さらに雷管によって起爆をコントロールすることに成功、これがダイナマイトの発明です。現在でも火薬を含む火工品は、国防や軍事目的以外にも、鉱物資源の採掘、トンネルの掘削や建築物の解体をはじめとする多くの土木事業、切断・圧縮・成型などの加工、宇宙ロケット・架線用放射ロケット・気象観測ロケットなどの発射・推進薬、自動車用エアバッグなど、多くの分野で使用されています。ここにはノーベルの発明と同様、危険な物質を安全に取り扱う技術が結集されていますが、火工品に限らず、我々が取り扱う化学物質には何らかの危険・有害性が潜んでいます。これらを安全に生産し、お客様へ安全にお届けし、またきちんとした情報を提供する、化学産業に携わるものとして、そういった重大な責任を負っていることをあらためて自覚し、その技術・技能に誇りを持って社会に貢献していくことを再認識したいと思います。



さて、化学総連の活動ですが、産業対策委員会・調査情報委員会・教育研修委員会の3委員会を中心に、各単組委員長の皆様に活動を力強くリードしていただきながら、各委員会の連携によってあらゆる課題に取り組んでいます。トピックスとして、産業対策委員会の小委員会を中心に、イノベーションの可能性を高め

る教育のあり方をまとめ、文部科学省との勉強会や意見交換会を重ねてきました。年末には高大接続システム改革会議中間まとめに関する意見募集がありましたが、これに対する化学総連としての意見をまとめ、パブリックコメントを提出したところです。また、安全アンケートの結果から見てきたコミュニケーションの重要性をさらに深く検証することを目的に、年明けには組合員の皆様へコミュニケーションに関するアンケートを実施するべく、準備を進めているところです。

また、定期大会にてご承認いただきました化学総連としての産業政策実現への挑戦については、さらなる政策能力の強化を図るべく、専従役員の増員や事務所の独立・移転、地域との連携強化も含めた各会議体の見直しに加え、外部組織との連携のあり方も含めた新たな組織運営について、化学総連として大きな一歩を踏み出せるよう鋭意準備を進めているところです。

化学総連が、組合員だけでなく産業界や社会の皆様からもずっと選ばれ続ける、真にプロフェッショナルな組織であり続けるために、加盟組織の皆様方のさらなるご協力をお願いして、新年のご挨拶とさせていただきます。

## ～化学総連活動報告～

# “組織は人なり”人々の成長が化学産業の未来を明るく照らし出す

化学総連では、目的に応じた様々な担当者別会議を開催することで、同様の課題を抱える担当者同士が話し合い、繋がり合える機会を多く提供しています。一人では解決できなかった事を化学総連の仲間と通じ合う中で気づきを得て新たな一歩を刻んでいく。

化学総連では、人々の成長をサポートし続け、化学産業の未来を明るく照らす活動に力を入れています。

安全操業を進めていきたい。互いに実りのある会議としましょう」とご挨拶を頂きました。



会議風景

### ◇第7回安全担当者会議を開催

2015年12月15日（火）、三重県四日市市にあるJSR株式会社四日市工場において、各単組の安全担当者20名など、総勢28名が参加し、第7回安全担当者会議が開催されました。JSR株式会社では、過去に発生した痛ましい労働災害の経験をもとに、労働災害を二度と発生させないという強い意志の下、労使一体となり全社を挙げた安全活動の取り組みを行っています。以下にその概要を報告致します。

#### 主催者代表挨拶

調査情報委員会の寺前委員長（DIC労組）より、JSR株式会社四日市工場の労使の皆様に対する御礼と共に、「安全関連の議題は多くの人の関心事であり、他社の先進事例を参考にしながら、五感を働かせそれぞれの企業における安全衛生活動へと横展開して欲しい」とご挨拶頂きました。

#### 会社側代表挨拶

四日市工場長の中澤様より、「安全活動は企業存続の基盤であり、一方で安全活動に切り札はない。社員の意識を高め、日ごろの行動に展開していく上で各社の苦労話を聞かせていただき、化学業界一丸となって

#### JSR株式会社四日市工場の安全の取り組みについて

環境保安部課長の高橋様ならびにJSR労組松岡四日市支部長のご説明のもと、四日市工場の工場見学を行いました。工場見学では、四方を民家に囲まれた四日市工場の安全意識の醸成や、特に若手社員の労働災害を撲滅するためのOJT教育のあり方などについてご説明を頂きました。

高橋課長からのご説明には、「安全に対する重要課題とその根源的要因が何かを徹底的に話し合う中で、自分たちが納得できる対策と計画を立案する事が重要である」との示唆がありました。

化学総連では、担当者別会議の開催を通じて、参加された皆様に知識や情報を持ち帰って頂くと共に、各単組間、各担当者間における人脈という架け橋を一つでも多く築けるように会議スタイルや会議内容の充実を図って参ります。



JSR株式会社 四日市工場